

参考文献

人文情報学演習 II-1a で利用するとよいであろう参考文献を以下に挙げる。日本語の文献のみ。

[1] 仏教学分野 仏教学に関する概説書など

- ・ 『岩波講座 東洋思想』岩波書店。(全16巻のうち仏教に関する巻)
- ・ 『仏教伝来』大谷大学広報編集委員会, 2001.
- ・ 『仏教の思想』角川ソフィア文庫, 角川書店。(全12巻)
- ・ ヘッセ (高橋健二 訳) 『シッダールタ』新潮文庫, 新潮社, 1971. (小説)
- ・ 増谷文雄『仏陀 — その生涯と思想 —』角川選書 18, 角川書店, 1969.

[2] 辞典 工具として有用。(総合研究室に有)

- ・ 早島鏡正 監修, 高崎直道 編集代表『仏教・インド思想辞典』春秋社, 1987.
- ・ 多屋頼俊, 横超慧日, 舟橋一哉 編『仏教学辞典』(新版) 法蔵館, 1995.
- ・ 中村 元, 福永光司, 田村芳朗, 今野 達, 末木文美士 編集『岩波 仏教辞典』(第二版) 岩波書店, 2002.
- ・ 中村 元『広説佛教語大辞典』東京書籍, 2001. (『佛教語大辞典』縮刷版, 東京書籍, 1981)
- ・ 塚本善隆 編纂『望月佛教大辞典』(増訂版) 世界聖典刊行協会, 1954-1963.
- ・ 小野玄妙, 丸山孝雄 編『仏書解説大辞典』大東出版社, 1964-1981.
- ・ 監修 辛島昇 et al.『南アジアを知る事典』(新訂増補版) 平凡社, 2002.

[3] 地図 (総合研究室に有)

- ・ Joseph E. Schwartzberg ed., *A Historical Atlas of South Asia*, Chicago and London: University of Chicago Press, 1978.

[4] 口伝・書写, 書記・書物・媒体 「書く」という発想を持たない文化, 逆に「書く」ことを前提とする文化世界とはいかなるものか? 「口伝と書写」とそれによって現れてくる文化的特徴.

- ・ オング, ウォルター・J (桜井直文・林正寛・糟谷啓介 訳)『声の文化と文字の文化』藤原書店, 1991.
- ・ カラザース, メアリー (別宮貞徳 訳)『記憶術と書物 — 中世ヨーロッパの情報文化』工作舎, 1997.
- ・ 川田順造『無文字社会の歴史: 西アフリカ・モシ族の事例を中心に』同時代ライブラリー 16, 岩波書店, 1990.
- ・ ——『口頭伝承論』上・下, 平凡社, 2001.
- ・ 工藤 進『声: 記号にとり残されたもの』白水社, 1998.
佐野広明・星川啓慈「チベットにおける宗教的テキスト — 実践行為と「読み」の問題を中心にして —」『図書館情報大学研究報告』13-2, 1994.
- ・ 下田正弘「口頭伝承から見たインド仏教聖典研究についての覚え書き」『印度哲学仏教学』第17号, 2002.
- ・ シャルチュエ, ロジェ (水林 章, 露崎俊和, 泉 利明 訳)『書物から読書へ』みすず書房, 1992.
- ・ —— (長谷川輝夫 訳)『書物の秩序』ちくま学芸文庫, 筑摩書房, 1996.
- ・ 富谷 至『木簡・竹簡の語る中国古代: 書記の文化史』世界歴史選書, 岩波書店, 2003.
- ・ ハヴロック, エリック・A (村岡晋一 訳)『プラトン序説』新書館, 1997.

- ボルツ, ノルベルト (識名章喜, 足立典子 訳) 『ゲーテンベルク 銀河系の終焉 — 新しいコミュニケーションのすがた』 叢書・ユニベルシタス 657, 法政大学出版局, 1999.
- 本田義憲 他編 『説話の言説 — 口承・書承・媒体 —』 (説話の講座 2) 勉誠社, 1991.
- マクルーハン, マーシャル (森 常治 訳) 『ゲーテンベルクの銀河系 — 活字人間の形成』 みすず書房, 1986.
- 三宅伸一郎 「チベットの音 — 声・書物・伝記 —」 『火鍋子』 51, 2001.

[5] “情報学”の基礎付け

- 西垣 通 『こころの情報学』 (ちくま新書 204) 筑摩書房, 1999.
- — 『基礎情報学 — 生命から社会へ』 NTT 出版, 2004.